離散構造 期末試験 (1,2 クラス用) 成績評価

2010 年 3 月 7 日 (日), 亀山 (幸)

1 成績評価

期末試験の素点部分は以下の通りである。(100 点満点、平均点は 61.9 点であった。)

得点	人数
90-100	2
80-89	5
70-79	5
60-69	15
50-59	15
40-49	5
30-39	1
-29	1
未受験	7

90 点以上は 2 人 (98 点 石川大君, 94 点通事さん) だった。

成績評価は以下の式で行った。

- 期末試験の点数 (100 点満点)
- 出席による減点 (8 回以上の出席は減点なし、7 回以下の場合は、1 回につき 5 点減点); なお、9 回以上出席の場合はボーナス点を若干加算; 大幅な遅刻等の場合は 50%程度の出席点とした。)
- 演習による追加点または減点 (演習で 1 回も黒板にでて解答しなかった人は 3 点減点。解答した人、特に、2 回以上解答した人については、内容に応じてボーナス点を加算した。)

この合計点数をもとに 75 点以上を A, 60 点以上を B, 45 点以上を C として、成績は、A が 13 名, B が 21 名, C が 12 名, D が 3 名 (期末試験を受験しなかった 7 名を除く) という成績になった。本来ならば 50 点以上を合格ラインとしたいところだが、45-49 点の人の答案、出席状況を勘案した結果、繰上げてよいと判断して、合格ラインを 45 点とした。

期末試験の採点済み答案の返却、採点や成績評価に対する質問や異義申し立て等については、講義の web page に別途情報を置くので、そちらを参照してほしい。(メールによる質問自体は、いつでも受けつけている。)